

ご挨拶

国立女性教育会館女性アーカイブセンターは、2008年の開設以来、女性教育・女性運動・女性政策などに関わる資料を収集・整理・保存・提供しています。



このたび、当センターでは、ベアテ・シロタ・ゴードン(Beate Sirota Gordon)さん関連資料の寄贈を受けました。ベアテさんは、第二次世界大戦後、連合国最高司令官総司令部(GHQ)民政局の一員として日本国憲法草案作成に携わり、第14条「法の下での平等」、第24条「両性の平等」の条文を作成しました。

今回の展示では「ベアテ・シロタ・ゴードン展～日本国憲法に男女平等の思いを込めて～」と題し、ベアテさんの長女ニコール・A・ゴードン(Nicole Ann Gordon)さん、ご関係の方々に寄贈いただいた資料をご紹介します、ベアテさんの生涯を振り返ります。この展示が戦前から現在に至る、日本の男女共同参画社会の形成について考える機会となれば幸いです。

資料をご寄贈くださった皆様や本展開催にあたり協力いただきました方々に、深く感謝申し上げます。

2019年4月

独立行政法人国立女性教育会館
理事長 内海 房子

ベアテ・シロタ・ゴードンさん年譜

西 暦	和 暦	年 齢	出 来 事
1923.10.25	大正12年	0歳	オーストリア・ウィーンで誕生
1929	昭和 4年	5歳	父レオ・シロタ、母オーギュスティーヌ・シロタとともに来日 ドイツ学校入学
1936	昭和11年	12歳	アメリカンスクールに転校
1939	昭和14年	15歳	アメリカ・サンフランシスコのミルズ・カレッジに入学
1942	昭和17年	18歳	CBSリスニング・ポストでアルバイト
1943	昭和18年	19歳	ミルズ・カレッジ卒業 アメリカ陸軍情報部 (OWI) に就職
1945	昭和20年	21歳	Time社外国部に移る 12月24日、連合国最高司令官総司令部 (GHQ) 民政局員として来日
1946	昭和21年	22歳	日本国憲法草案作成に携わる
1947	昭和22年	23歳	アメリカへ帰国
1948	昭和23年	24歳	ジョセフ・ゴードン (元GHQ通訳)と結婚
1952	昭和27年	28歳	市川房枝の全米ツアーに同行
1954	昭和29年	30歳	長女ニコール出産
1958	昭和33年	34歳	長男ジェフリー出産 ジャパン・ソサエティ パフォーミング・アーツ部門 初代ディレクターに就任
1960	昭和35年	36歳	アジア・ソサエティにも勤務 (1993年退職)
1965	昭和40年	41歳	父レオ・シロタ永眠
1985	昭和60年	61歳	母オーギュスティーヌ・シロタ永眠
1990	平成 2年	66歳	アジアの舞台芸術の紹介に関する活動に対してBessie賞受賞
1991	平成 3年	67歳	ミルズ・カレッジより名誉博士号授与
1997	平成 9年	73歳	エイボン女性大賞受賞 ジョン D.ロックフェラー賞受賞
1998	平成10年	75歳	勲四等瑞宝章受章
2005	平成17年	81歳	第9回赤松良子賞受賞
2012.8.29 12.30	平成24年	88歳 89歳	夫ジョセフ・ゴードン永眠 ベアテ永眠

<参考文献> : 『1945年のクリスマス：日本国憲法に「男女平等」を書いた女性の自伝』
ベアテ・シロタ・ゴードン著；平岡磨紀子構成・文、柏書房 1995年

両親とともにウィーンから日本へ ～ベアテさんの子ども時代～

ベアテさんは、1923年にウィーンで生まれました。1929年5歳の時に、父親のレオ・シロタさんが作曲家・山田耕筰の招きにより東京音楽学校（現・東京芸術大学）教授として赴任するのに伴い、家族で来日しました。

レオ・シロタさんは、「リストの再来」と言われたピアニストで、国内外で演奏活動をする一方、日本では教育者として、園田高弘さん、藤田晴子さんなど多くのピアニストを育てました。

一家は東京・乃木坂の家で、お手伝いの小柴美代さんとともに長く暮らしました。

ベアテさんはドイツ人学校に入学しますが、その後アメリカンスクールに転校します。ドイツ語・日本語・英語・ロシア語・フランス語を話せました。



子どもの頃



両親とピアノを囲んで

レオ・シロタの弟子 藤田晴子さん

～東京帝国大学の女子第1期生～

藤田晴子(1918－2001)さんは、ドイツで生まれ10歳の時に帰国しました。ピアノを5歳ではじめ、帰国後ドイツ語で指導を受けられる先生を探し、レオ・シロタさんに師事することになりました。ドイツ語ができ、ピアノに才能のある晴子さんと一家との関係は、ニコールさんまで続く長いものとなりました。1938年20歳の時に、第6回毎日音楽コンクールのピアノ部門1位になり、演奏会で活躍しました。

1946年、東京帝国大学(現・東京大学)の女子第1期生として法学部に入学します。当時の新聞には「男女同権の論文を書きたいわ」とコメントした記事が掲載されています。

大学卒業と同時に法学部助手となり、その後、1952年に国立国会図書館に転職します。31年間調査及び立法考査局に在籍し、国会議員からの依頼を受け各国の制度その他を研究しました。専門調査員(事務次官級)で退官後、八千代国際大学教授となり憲法学を教えました。その一方で、音楽評論も残しています。



レオ・シロタ先生と



ベアテさんと

ミルズ・カレッジに入学

～東京からアメリカ・サンフランシスコへ～

ベアテさんは、東京のアメリカンスクールを卒業すると、1939年15歳の時に、アメリカ西部サンフランシスコの伝統ある女子大学、ミルズ・カレッジに留学します。優秀な成績を修めたベアテさんは、卒業式で表彰されました。

ミルズ・カレッジ在学中、自活のためアルバイトをはじめ、後にアメリカ陸軍情報部(OWI, Office of War Information)で職を得ます。ここでは、敵国向け宣伝放送として始まっていたVoice of America (VOA)の日本語番組の制作に関わりしました。その後1945年ニューヨークに移り、Time社で調査員として働きました。

ベアテさんの資料は、遺言により母校ミルズ・カレッジに贈られました。その後、長女ニコール・A・ゴードンさんから、日本に関わる資料は、国立女性教育会館(NWEC)に寄贈されました。



ミルズ・カレッジ

GHQ民政局員として来日 ～日本国憲法草案作成に携わる～

第二次世界大戦後、ベアテさんは占領軍の民間人要員として外国経済局に志願し採用され、1945年12月24日、連合国最高司令官総司令部(GHQ)の民政局員として来日しました。軽井沢に疎開していた両親とも再会しました。日本に赴任してからしばらくは、公職追放に関する調査などを担当していました。

1946年2月3日連合国最高司令官ダグラス・マッカーサーが、GHQ民政局に憲法改正に関する3原則(マッカーサー・ノート)を提示して日本国憲法草案の作成を指示しました。ベアテさんは人権に関する委員会の委員に任命され、女性の権利に関するさまざまな条文を執筆しました。それらは日本国憲法の第14条「法の下での平等」、第24条「両性の本質的平等」に残りました。1946年11月3日の日本国憲法公布を貴族院本会議場傍聴席で見届け、1947年5月、アメリカに帰国しました。



GHQの職員と。中央がベアテさん



日本国憲法公布を傍聴する民政局員

日本国憲法成立の過程

1945年8月	日本がポツダム宣言を受諾。終戦（[終戦の詔書]）
10月4日	連合国最高司令官ダグラス・マッカーサーが近衛文麿国務大臣に憲法改正を指示
10月27日	憲法問題調査委員会初会合（委員長：松本烝治国務大臣）
1946年1月4日	松本国務大臣、憲法改正案脱稿
2月1日	憲法問題調査委員会の試案が毎日新聞にスクープされ、 「あまりに保守的、現状維持的なものに過ぎない」との批判を受ける
2月3日	マッカーサー、GHQ民政局に、憲法改正に関する3原則（マッカーサー・ノート）を 提示し、日本国憲法草案の作成を指示
2月4日	民政局、GHQ草案起草作業開始
2月8日	政府、「憲法改正要綱」と「説明書」をGHQに提出 GHQ、「憲法改正要綱」の一時的受取り（2月13日に会議を持つことを約束） GHQ、人権小委員会第1稿完成。運営委員会と会合
2月12日	マッカーサー、GHQ草案承認 チャールズ・L・ケーディス民政局行政課長、「憲法改正要綱」に 対する批判的所見をコートニー・ホイットニー民政局長に提出
2月13日	ホイットニーらが「憲法改正要綱」の受取りを正式に拒否するとともに、 吉田外務大臣、松本国務大臣らに、憲法草案を手渡す
2月22日	閣議、GHQ草案受入れ決定、27日GHQ草案に基づく日本案の作成に着手
3月6日	「憲法改正草案要綱」の発表
4月10日	女性の選挙権を認めた新選挙法のもとで衆議院総選挙が実施され、 39人の女性議員が誕生
4月17日	「憲法改正草案」の全文公表
6月20日	帝国憲法改正案を衆議院に提出、8月24日衆議院修正議決、 10月6日貴族院修正議決
11月3日	日本国憲法公布
1947年5月3日	日本国憲法施行

市川房枝さんの全米ツアーに同行 ～アメリカ大統領との会見も～

1947年にベアテさんはアメリカに戻り、翌1948年に元GHQ通訳のジョセフ・ゴードンさんと結婚します。

1952年には、アメリカを訪れた市川房枝さんに同行し、2カ月間全米を旅します。エレノア・ルーズベルトやドワイト・D・アイゼンハワー大統領らとの会見にも同席しました。行程表を見ると、ニューヨーク、アトランタ、ワシントン、ボストンなどを訪れていることが分かります。ベアテさんの母校ミルズ・カレッジも案内しています。

市川房枝さんは、戦前から婦人参政権実現のために尽力し、訪米翌年の1953年に参議院議員に初当選しました。



市川房枝さんに寄り添う

行程表

Itinerary for Miss Ichikawa and Mrs. Gordon

New York - Nashville - Atlanta - Washington - New York - Boston

Lv. New York 9:30 AM Tues. 6 Jan. AA 1 (American Airlines)
Arr. Nashville 12:45 PM " " " " "

Hotel in Nashville: Noel
Contact Person: Mrs. Ina Car Brown, Scarritt College
Schedule:
Wednesday: Mrs. Brown *Mrs. Gordon*
Thursday: League of Women Voters: Mrs. Shepard
Schwartz, Lynwood Boulevard
Friday: Free

Lv. Nashville 5:05 PM Fri. 9 Jan. EA 185 (Eastern Airlines)
Arr. Atlanta 9:04 PM " " " " "

Hotel in Atlanta: Biltmore
Contact Person: Dr. Florence Reed, Pres., Spellman College
Schedule:
Saturday: Dr. Reed *Miss Waller*
Sunday: Free
Monday: League of Women Voters: Mrs. Dan M. Byrd, Jr.,
2241 Riada Dr., N. W.

芸術ディレクターとしての活動

～アメリカでアジアの芸術家を支援～

1953年にベアテさんはジャパン・ソサエティで仕事を始めます。

1954年に長女ニコールさんを出産し、その1カ月後にはベビーシッターを雇い、仕事に復帰します。1958年、ジャパン・ソサエティにパフォーミング・アーツ部門ができると、初代ディレクターに就任し、日本の文化・芸術をアメリカで紹介することに力を注ぎました。

1958年には長男ジェフリーさんを出産し、1960年からはアジア・ソサエティの仕事も兼務するようになりました。アジア・ソサエティでは、アジアの国々の舞踊と演奏のプログラム作りに携わりました。



棟方志功さんと



園田高弘さんと

日本各地での講演活動 ～女性たちの憲法学習～

1990年代まで、ベアテさんは日本国憲法草案に関わったことを多くは語りませんでした。1993年アジア・ソサエティ退職後は、積極的に講演活動やインタビュー、テレビの取材にも応じて日本全国200カ所以上で講演活動を行いました。

1999年日本では、21世紀の最重要課題として「男女共同参画社会基本法」が成立しました。全国各地の女性たちは、ベアテさんを日本に招く実行委員会や、憲法と男女平等を学ぶネットワークを立ち上げて、ベアテさんの講演会を開きました。講演会は報告書としてまとめられ、女性教育情報センターに多数所蔵しています。富山県高岡市の「ベアテさんの会」は、講演会から20年間、現在も憲法学習を続けています。

ベアテさんが日本国憲法の女性の権利に込めた思いは、図書・映画・舞台などに記録が残され、日本の女性を励ましています。



1998年 ニューヨークの日本領事館にて勲四等瑞宝章受章 75歳



講演会報告書